

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2016

7月

No.133



支え合いふくしプラン
第3次
地域福祉推進計画
平成28年度～31年度
策定しました



ひ孫と
いっしょ

シリーズ132

波賀町 野尻

小林 千代美さん(82歳)

○麗ちゃん(13歳)

○司くん(6歳)

小林 優子さん

■長女・長男

愛称



第3次
地域福祉推進計画
平成28年度～31年度
策定しました

穴栗市社会福祉協議会（以下、
 本会）では、6月30日（木）に開
 催した「第30回評議員会」におい
 て、『第3次地域福祉推進計画』
 を提案し、承認されました。

1年に及ぶ策定委員会での議
 論を重ね、今後4年間の穴栗市の
 生活課題や福祉課題を抽出・分析
 し、穴栗市の地域福祉を推進する
 ための計画を策定しました。

今回の計画では、「地域包括ケ
 アシステム」を穴栗市で構築して
 いくために、社協の立場でどのよ
 うに取り組んでいくのかに焦点を
 充てています。

地域福祉目標を実現するために、4つの推進目標を設定し、地域福祉の推進と社協の基盤強化に取り組んでいきます。そして、穴粟市社協の主要事業活動にあたるものとして、12の具体的な活動項目を提示し、活動項目に取り組むためのキーワードとして、全体で61の個別活動項目を設定しました。

地域福祉目標

だれもが安心して暮らせる

ふくしのまちづくり

「ほっとけない」をほっとかない災害に――

社協の使命と地域福祉の情勢を踏まえ、「だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり――ほっとけない」をほっとかない災害に――」を、今後4年間で本会がめざす地域福祉目標として決めました。

近年、地域住民の抱える生活福祉課題（困りごとなど）は複雑化しており、こうした課題に対応していくには、公的なサービスのみならず、住民相互の助け合い・支え合い活動が必要となります。

だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくりを進めるためには、地域住民一人ひとりの主体的な活動への参加が欠かせません。

自治会福祉連絡会をはじめ、地域で活動するさまざまな

計画の愛称

『支え合い

ふくしプラン』

団体や機関と連携・協働しながら、ほっとけないをほっとかない災害の実現に向けた取り組みを進めていきます。

地域福祉目標で決めました、「だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり――ほっとけない」をほっとかない災害に――」のとおり、第3次計画は、「ほっとかない」をキーワードに計画を策定しています。

地域、団体、行政、社協等が連携と協働を図りながら支え合いを進める本計画にふさわしい愛称として、「支え合いふくしプラン」と名付けました。

推進目標

計画の4つの柱

① いざという時困らない地域をつくる

平時から地域で見守り活動を展開し、元気と笑顔があふれる居場所や拠点づくりに努め、いざという時困らない地域づくりに努めます。

② みんなで支え合えるつながりをつくる

地域住民や関係団体等、幅広い地域関係者が協働し、支援を必要としている人を地域全体で支え合えるつながりづくりを進めます。

③ 自分らしく生活できる仕組みをつくる

地域で暮らすすべての人が、自分らしく生活できるよう、社協の職種間や行政等関係者同士が、連携・協働できる仕組みづくりを進めます。

④ 社協を強くするための組織基盤をつくる

社協が、住民にとって最も身近な地域福祉を推進する中核団体として、福祉ニーズに対応したきめ細やかな活動が展開できる組織基盤をつくります。

●詳しくは、市内全戸に配布します「概要(ダイジェスト)版」をご覧ください。

読者の感想より

6月号の特集で、事業報告の一部ですが、地域福祉活動で「つながりづくり」を読み、中身が少し分ってきました。やはり分からない所もあったので勉強になりました。(山崎町 女性)

や

まさき

手話でいっしょに話そうよ

宍粟市立山崎西小学校

6月22日(水) 山崎西小学校で授業参観が行われ、3年生が、宍粟ろうあ協会の八木昌幸さんと手話通訳ボランティア「手話サークルひとみ」を講師に迎え、手話の学習を行いました。

手話が出来なくても身振りや口話、筆談や空書でも気持ちを伝えることができることを学び、保護者もいっしょに手話であいさつを覚えしました。

児童たちは、「家に帰ったら、家族に手話であいさつを教えてあげたい。今度は、自分の名前を覚えてみたい」と意欲的で、保護者の方々も「親子で学べたのは貴重な体験でした。今後必要なことなので続けてほしい」と話されていました。

宍粟市では、今年4月に『宍粟市みんなの心つ



児童18名は、お母さんたちと一緒に、手話で「おはよう」「ありがとう」など、あいさつを覚えました(山崎西小学校)

なぐ手話言語条例」が施行され、「手話は一つの言語であること」を認識し、手話を身近に感じられるよう普及活動が進められています。

私たち一人ひとりが手話への理解を深め、誰もが安心して暮らすことができる地域社会が求められています。

このような取り組みが、地域全体へ広がるよう、福祉学習を推進していきます。

(山崎支部 山本めぐみ)

い

ちのみや

あじさいを村おこしに役立てたい

ふかだに 深河谷あじさいまつり

6月26日(日)、深河谷自治会では、あじさいセンター(公民館)を会場に、「第13回あじさいまつり」を開催し、約120人が参加しました。

当日は、老人クラブや農会、婦人会、消防団各会が食べ物を出店し、ふれあい喫茶やフラダンス、ビンゴゲーム等の催しが行われるなど盛りだくさんの内容で賑わっていました。

会場では、あじさいの栽培に携わられている中津直幸さんから、「あじさいを定着させて村を元気にしたかったんや」と、まつりへの想いをお聞きしました。

また、自治会のあじさい係(掃除や剪定などの世話)である西山利明さんは、「大好きなあじさい作りを村おこしに役立てたい」と、意気込みを語られました。

当初は苦労続きでしたが、あじさいが順調に育つようになり、「花の見頃にみんなで楽し



みなさん笑顔でまつりは大賑わいです!(深河谷あじさいセンター)

める交流の場をつくりたい」と、自治会総出でまつりに取り組みられています。

このように深河谷では、あじさいまつりを交流の場や村づくりに活かしています。

あじさいを通じた住民同士のつながりをこれからも大切にしてください。

(二宮支部 岡崎章訓)

や・い・は・ち トピックス

は
が

「阿淡波智」とは川魚の「ヨシノボリ」のことで、昔を想いみんなでつけられた名前だそうです

気軽に寄れる男衆の憩いの場

ふれあい喫茶「阿淡波智」

「田んぼの水、見にいってきただ」と、近所の男衆が百円を持って農作業の合間に集まって来られます。

6月12日(日)、谷自治会にある、男のふれあい喫茶「阿淡波智」は、早朝から活気に溢れていました。

阿淡波智は、7年前に現オー

ナーの西岡明規さんが農業用倉庫を建設の際に、「仲間とコーヒーが飲めるような場所があったらええな」と倉庫の一室をお茶飲み場にされたのがきっかけです。

毎週日曜日に、農作業等へ出かける男衆に合わせて、午前6時頃にはオープンしています。

西岡さんは「なんやかんやでお客さんがあるで続けとる。できる限りは続けようと思う」とにこやかに話されます。

常連さんからは「ここへ来るのが習慣ついて日曜日になったらみんなの顔を見に来るんが楽しい」と話を伺いました。

気心の知れた仲間たちが集い、田んぼや肥料のことなど身近な話題で盛り上がる、男衆のちよつとした「憩いの場」となっています。

みなさんの地域にも、このような気軽に寄れるちよつとした場があるといいですね。

(波賀支部 坂本幸子)

モデル地区での活動を継続

中島自治会「ご苦労さん会」

6月19日(日)、中島コミュニティセンターにおいて、「たまには、ご苦労さん会」が行われ、老人クラブ会員のみなさん17人が参加されました。

「ご苦労さん会は、26年度から2年間、本会の小地域福祉活動モデル地区として指定を受けた中島自治会が、昨年

から取り組んでいます。

毎月、センター周辺の掃除や花壇の手入れをされている老人クラブのみなさんに、「感謝の気持ちを込めて」と福祉委員である婦人部のメンバーを中心に、この時期に開催しています。

「いつも綺麗にしてくださいありがとうございます」と婦人部長の春名ひづるさんの挨拶から始まり、みんなで歌ったり、手遊びや室内ゲーム、会

食などで交流を深めました。老人会長の久古隆一さんは、「こういう機会を作ってくれてありがたい。普段会えん人とも会えるしな」と、笑顔で話されます。

このように、モデル地区からの実践を継続的に取り組んでいく中島自治会。

福祉委員を中心に地域の実態や特色に応じた取り組みが進むよう、社協も応援していきます。

(千種支部 横山洋子)



シャッフル&ゴルフで大盛り上がり(中島コミュニティセンター)

ち
くさ

バスに乗って参加しよう!



夏休みボランティアスクール

小学3年生以上を対象にしたボランティア体験教室を全4回にわたり開催します。夏休みに新たなチャレンジをしませんか!

1回目

防災学習

山崎 7/27(水)
午前10時30分～午後2時
会場: 宍粟防災センター

2回目

マジック体験

一宮 8/3(水)
午前10時～12時
会場: 一宮保健福祉センター

3回目

盲導犬を知っていますか?

波賀 8/10(水)
午前10時～12時
会場: メイプル福祉センター

最終回

絵手紙ボランティア体験

千種 8/17(水)
午前10時30分～12時
会場: 千種保健福祉センター

※この体験教室は、本会各支部に集合し、公共交通バス(子ども片道100円)に乗り、それぞれの教室に参加します。詳しくは、学校を通じて配布されるチラシ及び本会ホームページをご覧ください。

お問合せ: 各支部

「病院ボランティア」に参加しませんか!



病院ボランティア「めいちゃん」

宍粟総合病院で、来院される患者さんのお手伝いを中心に活動をしている「病院ボランティアめいちゃん」。現在のメンバーは28人で、青いエプロンがトレードマークです。代表の大倉澄子さんは「来院される患者さんに“ありがとう”と言ってもらえるのが本当にうれしい。青いエプロンを見た際には、気軽に声を掛けてください。」と話されます。

活動に特別な資格や技術は必要ありません。みんなの役に立ちたい、人とのふれあいを大切にしたいという方、いっしょにボランティアしませんか。

場 所: 宍粟総合病院

活動日: 月曜日から金曜日(祝日を除く)

時 間: 午前9時～11時

△問い合わせ: 宍粟総合病院総務課(62-2410)

トライやる・ウィーク

5/30(月)～6/3(金)

宍粟市内の4つの中学校(山崎南、一宮南、波賀、千種)から2年生9人が、さまざまな社協の事業にチャレンジしました。

配食サービスのお弁当作りや配達、お達者クラブ、善意月間の啓発活動など一週間がんばった生徒のみなさん、5日間、本当にお疲れさまでした。



通所型介護予防事業
(お達者クラブ)



訪問入浴介護事業
(入浴サービス)



配食サービス事業

・利用者の方から元気をもらった。
・ボランティアさんがいきいきとお弁当を作られているのがとてもよかった。
・地域で声をかけてもらえてうれしかった。

ボランティアの日

6月は『善意推進月間』。宍粟市ボランティア連絡会が中心となり、市内各地で総勢214人が清掃活動を行いました。

町内の清掃活動

6/1(水)…宍粟防災センターから中国自動車道の側道中心の清掃作業。

6/4(土)…千種町内の主要道路沿いの清掃作業。



福祉施設の清掃活動

5/25(水)…しそ自立の家では草刈りや施設内清掃。

6/16(木)…まどか園では車いすの清掃、はりま自立の家では草刈りや窓ふきなどの作業。

参加者の声

・たくさんのゴミを回収できました。大勢の力はすばらしい。
・きれいになって気持ちいい、利用者の方に喜んでいただければうれしいです。